



俺達少年団



後谷山笠同好会



西流会 (西古門)



童心会 (野添)



新友会 (新門)



栄友会 (中古門)



東和会 (東古門)



方城青年団誠遊会

# 美しく躍動

福智町で初めて実現した競演会

## 桶

狭間、長篠、関ヶ原：戦国絵巻の武者人形が壇上で太刀をかざし、槍を振るう。合戦の様に移られた絢爛な山笠を引き、回し、練り、飾りの躍動感以上に、人々は熱を帯びて沸いた。

5月3日、大型連休の2日間（4日・5日）で行われる神幸祭の前夜に「伊方山笠競演会」が行われた。日暮れとともに、方城分館前の広場には、8基の山笠が統々と集まつてきた。

伊方という地域は同じだが、赤坂神社、白髪神社、それぞれの氏神による神幸祭。だから当然、旧方城町のときから、このような数の山笠が一堂に会することはなかった。今回、方城青年団誠遊会が発起人となり、福智町になって初めて山笠競演会が実現した。

競演会は、中古門子ども会の獅子舞で勢よく幕を開けた。そして、8基の山笠が順番に1基ずつ、広場狭しと練り回る。すっかり日も落ちた二巡目には、浮かび上がった電飾の光が筋となり、激しい山笠の軌跡を無数の流星のように映し出した。きらびやかで豪快な初の競演会で、祭りに関わる人たちは神幸祭の成功と無事を心から祈った。

その昔、山笠飾りのころの戦国の世では「強い軍勢は美しく、美しい軍勢は強い」とされたという。敵と対峙した武将は、相手方の統率力を整然とした兵の列や動きで計ったのかもしれない。

この競演会もまた、それぞれの山笠が飾りにも増して美しく動いた。この日の興奮が冷めるまもなく、一夜明けて、神幸祭本番の日を迎えた。



# 祭前夜

伊方山笠競演会